MACF 礼拝説教要旨

2024 年 1 月 7 日

【イエス様の福音】

彼に言いなさい。落ち着いて、静かにしていなさい。
恐れることはない。
イザヤ書 7 章 4 節

18「主の霊がわたしの上におられる。
貧しい人に福音を告げ知らせるために、
主がわたしに油を注がれたからである。
主がわたしを遣わされたのは、
捕らわれている人に解放を、
目の見えない人に視力の回復を告げ、
圧迫されている人を自由にし、
19 主の恵みの年を告げるためである。」
20 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。
会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。
21 そこでイエスは、
「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」
と話し始められた。
ルカによる福音書 4 章 18～21 節

＊＊＊
このふたつの聖句は「日ごとの糧）ローズンゲンの 1 月 1 日に選ばれていたものです。
読めば読むほど心が穏やかになっていくような気がします。
イザヤが預言した内容をイエスさまが受けて、ご自身がその役割を果たす
「油注がれた者」としての自覚をもって会堂で語っています。
そして、幸いなことに、この祝福の対象者は
「貧しい人」
「捕らわれている人」
「目の見えない人」
「圧迫されている人」
であり、自ら、この世の中での生きづらさを味わっている人たちです。

いわゆる肉体的に「貧しく」「捕虜になっており」「目が不自由で」
「政府や周囲から睨まれている人」という人たちへの福音でもあり、
精神的、霊的に、そういう状況に生きている人に対する福音の
告知でもあると思います。

霊的な貧しさ、霊的な束縛感に苛まされている人、霊的な盲目さ、とにかく
居場所を失っている人たちへの福音なのです。
それらの人たちにイエスさまが来てくださったことで「解放」「回復」「自由」が
もたらされるのだというのです。

イエスさまはそれをどのようにもたらすのでしょう。
1）重荷を共に担われるイエス：重荷の分かち合い

有名なイエスさまの発言がありますね。
マタイによる福音書 11 章 28-30
28 疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう。
29 わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。
30 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

自分の重荷をイエスさまに任せ、イエスさまから託された重荷を
担いつつ生きるのです。
「生きる」ことには悩みや不安はつきものです。明日のことは誰にもわかりませんし、自分のことについても何をどう考えるようになるのか
わからない面もありますので、いわば重荷は常にあるのです。
でも、一緒に担ってくださる方がおられることで、その重荷は軽くなるのです。
最終的な解決はイエス様が担ってくださいます。
そして、私たちはイエス様に助けられながら前に進むことができるのです。

2）共に歩まれるイエス

ルカによる福音書 24 章
25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、
26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

エマオへの途中、イエスさまの弟子であったこの二人は疲れ果て
不安でいっぱいになっていました。
イエスさまが一緒に歩き、道々、聖書を解き明かしておられます。
今年、イエスさまは私たちに同じようになさるでしょう。
ところがこの二人はイエスさまが一緒に歩んでくださっていることに気づきませんでした。
食事の時に気づきましたが、その時にはイエスさまはそこにはおられませんでした。
これは、私たちの経験と重なります。
イエスさまがいろいろな方法で語ってくださっているのに、それがイエスさまのメッセージだと気づかないことがよくあるのです。
その時、彼ら二人の心が燃やされ暖かくなったように、私たちの心にも
暖かい愛の火、希望の火が灯されることになるでしょう。

イエスさまは永遠の同伴者であり、永遠の伴走者でもあります。
そのお方が一緒にいてくださるのですから、悩むことはあっても絶望しないように心を強く持ちましょう。
＊＊＊＊
MACF 礼拝映像はこちらです。
https://youtu.be/kcdgXca1GaE